

平成13年度の活動のポイント（案）

平成13年9月20日

1. 地方における「対話の場」の展開

平成13年度については、刈羽村の住民投票等により、原子力政策（長期計画）の柱の一つであるプルサーマル計画が停滞していることを踏まえ、「重点対応」として、まず、地方活動を手がけてはどうか？

地方における「対話の場」のイメージ

- (1) 開催地域： 原発立地地域
- (2) 開催時間： 平日の昼間、夕方～夜 等
- (3) 開催形態： 当該地域における意見を幅広く反映しうるよう、地域ごとに柔軟に対応することが基本
市民参加懇談会からは企画メンバー（2～3名）が参加し、当該地域住民（在住者に限る）の代表者と「対話」
地域住民との共催を念頭
- (4) 開催頻度： 平成13年度については2回程度（?）

2. 原子力に関する情報や学習のあり方

地方における活動を通じて得られた問題意識も踏まえ、原子力に関する情報の受信・発信のあり方や学習のあり方について、検討を開始してはどうか？